

Q. 消防団は防災の要

Q. イベントの見直しを

て農業関係団体との連携・協力体制を構築し、取り組みを実践するための協議を進めている。

ブランド化は、新十津川町という産地の個性をいかに生かし存在感を消費者に伝えるかであります。本町には先人が築いた恵まれた大地があり、多様な農産物が生産されている。いかに特色を発揮するかが課題で、例えば、安全安心をキーワードにした付加価値感は様々な技術革新での栽培等が考えられる。固有ブランドとして他産地と明確な差別化を図ることは非常に困難ではありますが、こだわりを持った取り組みを関係者とともに推進し、農業経営の安定向上に邁進する。

消防広域化の中で本町の消防・防災の在り方は

質問 消防広域化は4年後の実施を目指し協議が進められているが、住民の安心・安全を確保するには、自衛と相互扶助の精神で成り立つ消防団が地域のまとまりの象徴であり、その行動は地域の防災意識と防災力の向上に貢献して

きた。広域化が進む中で町民の安心・安全を確保する上で、消防団をどう位置付けし、団員の確保、活動しやすい環境の整備、防災を含めた消防体制をどう確立するのか。

町長 小規模消防本部の解消と消防力の強化を図るため、消防本部広域化の推進が明文化された。中空知圏6本部を1つにする構想である。

本町消防団は5分団で構成され103名定数であるが、現在102名とほぼ充足され、退任者の後任も若い方々のご理解と雇用主の配慮により補充されてはいるが、高齢化が進んでおり、有事の際の本町内での支援体制づくりを急ぐ必要がある。防災組織の水防団との連携、消防団を含めた防災訓練等も検討しなければならぬ。本町のように広大な地域を持つところでは、従前同様、分団の果たす役割が重要となっており、この形を堅持し、各分団のネットワークを充実させていくことが重要と考える。

イベントの在り方と方向性について



菅木 正文 議員

質問 町が支援している5つのイベント(ふるさとまつり・雪まつり・陶芸まつり・味覚まつり・海山フェスタ)について、今後懸念される事業のマンネリ化、スタッフの固定化、財政支援の継続性に対する、これからの在り方と方向性については。また、秋の同時期に開催される味覚まつりと海山フェスタを発展的に合体させ、秋の収穫を大きく町内外にPRできるイベントにしては。

町長 イベント内容のマンネリ化やスタッフの固定化については、それぞれのイベントごとに、その成り立ちや歴史があり、各主催団体の担当スタッフがその都度、開催内容に知恵を絞る若くは感性で検討



を加え積み重ねてきた結果、現在の形になったものと考えている。近年ではユニークなイベントとしてマスコミに取り上げられるなど、徐々に道内外に向けて本町のPRとイメージアップに貢献していると考えます。

イベントを通じて特産品の販売や観光施設の利用増進にも効果があり、今後とも町として応分の支援を行っていく。